

# 三豊総合病院・香川県立中央病院視察報告

国保診療施設協議会現地研修会



府国保診療施設協議会の平成26年度国保直診職員府外現地研修会は、11月6、7日、府内の7国保診療施設から、事務職14名、看護師13名、技術職7名と本会職員の計36名が参加して、香川県の国保診療施設である三豊総合病院・香川県立中央病院を視察訪問した。

1日目は、観音寺市に位置する三豊総合病院の視察を行った。同病院は、観音寺市と三豊市で構成する「企業団」が運営を行い、国保診療施設の中でも早くから地域包括ケアの推進に取り組んできた病院である。平成25年度に新病棟の建設を含めた再整備を行った。始めに安東院長より、病院の概要についてプロモーションビデオを用いた説明を受けた後、施設の見学を行った。

2日目は、高松市の香川県立中央病院の視察を行った。同病院は急性期医療に機能特化しつつ、災害時医療やへき地医療への取り組みも方針としている。平成25年に高松市中心部より海岸沿いの埋め立て地へ移転を行っている。最新の免震構造により建設された施設の屋上にはヘリポートを備え、災害時の医療提供体制を構築している。同病院の弾正原事務次長と高島副看護部長の説明の後、施設の見学を行った。

施設見学については、両病院のご配慮により、職種ごとに分かれて見学することができ、突然の見学設備等のリクエストにも快く対応いただいたため、大変有意義な現地研修会となった。



香川県立中央病院概要説明・質疑応答場面